



**略歴**

- 昭和十四年三月、菊池郡隈府町（現菊池市）に生まれる。
- 熊本高校から東京芸術大学声楽科卒業、同大学院修了。
- ウィーン国立音楽大学留学。
- 文化放送音楽賞、毎日・NHKコンクール第一位並びにコンクール大賞、民音コンクール第一位、毎日・NHK海外派遣審査第一位、オランダのヘルトローゲンボッシュ国際声楽科コンクール第一位並びにグランプリ受賞。
- ハンス・ホッターに師事。
- 現在東京学芸大学助教授、東京芸術大学講師。

するに値する仕事だと思い、本当に決心して入ります。芸大へ入る時は、とにかく単に好きだからというだけで歌の専門家として頑張ろうなどとは考えていなかったような記憶があります。ですから、それからは他の大学の定期公演にエキストラとして出演する場合も、学生という気分ではなくて歌い手として、つまり仕事と割り切つてやるようになりました。

イーンに次ぐ都市ブラッツの州立オペラ劇場で一年間働きました。留学してみても感じたいことは、日本人の音楽のレベルが非常に高いということですね。実際、ウィーンの大学で優秀なのは日本人でしたし、オペラの授業の時でも、優秀な学生に役を持たせてやりたいという日本人がやることになり、その他の国の人を見学している時間が多かったですね。日本というのはやはりすぐれていますね。

### 教訓となったオペラ公演

オペラ公演を行うのにだいたい三カ月の準備期間が必要で、歌い手だけでも五・六十人

にはなります。それが一つの舞台の中で、同じ方向に向かつてやっていたらいいから、わがままばかり言っていたらだめなんです。それにオーケストラや裏方さん達加わると、総勢二百人位の大所帯になつてしまい、練習時間に一人でも遅れると、貴重な時間を二百人からの方々が無為に過ごさなければならなくなつてしまつてしまいます。ですから、風邪をひいて普通だったら寝ているような状態でも、自分一人がダウンしてはいけないので注射をうつても練習に参加しなければならぬということにもなつてしまつたんですね。そんなふうで大変厳しいのですが、このようなオペラ公演のための団体生活は、自分にとって最良の精神修養の場だと思つてます。

### 声楽王国？

今、クラシックの音楽家で活躍している人のうち七割位が熊本をはじめ九州出身だと思えます。テノールの板橋勝くんは、熊高時代の同級生ですし、そう、第一高校出身の方は多いですね。同じくテノールの伊津野修さん・早瀬一洋さん、メソソプラノの斉藤允樹代さん、そしてわが国の第一級メソ・ソプラノ歌

### インタビュー



このコーナーは県出身者で各界で活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

## 熊本に文化的受け皿を

東京学芸大学助教授 高橋修一氏

たかはししゅういち

NHKコンクール一位・大賞、そしてオランダ・ヘルトローゲンボッシュにおける国際声楽家コンクールグランプリ受賞と華々しい活躍をされている世界のソリスト高橋修一氏を東京・中野のマンションに訪ねた。芸術に対するひたむきな態度、その誠実な人柄にはうたれるものがあつた。無口な人で、控え目に語つておられたが、熊本の文化行政についての貴重な意見を聞くことができた。

### 私のふるさと「隈府」

熊本も随分変わりましたね。私、菊池市の隈府生まれで、隈府小学校・隈府中学校そして熊本高校へと進み、昭和二十二年には上京して現在に至つてますので、今でも当時の地理がしっかりと頭に入っています。それで、たまにこちらに帰つた時に、昔の知識でどこそこへ行こうと思つのですが、変わつてしまつていてもわかりませんね。

小・中学校では、音楽部やコーラス部に入つてはいましたが、どちらかというと「スポー

ツの方を主にやっていました。特に中学生の時は、バスケットと走り高跳びの選手をやつていたくらいですから。とにかく私は背が高いでしょ、現在一八七センチくらいはありますかね、それでバスケットにはもつてこの体格をしていたんですね。二年間勉強そつちのけで、暗くなるまで練習をして、家に帰り着いたらそのままバタツといくくらいやつていましたよ。ただ二年の夏休み以後からはからは熊高を受験するというので多少勉強しましたけれど、現在のようないく勉強しなかつたですから、塾へ行つた覚えもないし、

### 滝本・岩津両先生との出逢い

熊高入学後は隈府から熊高へ通学するわけにもいかず、南熊本の親戚の家に下宿し、そこから自転車通学することになりました。熊高では、男性コーラス部へ入部する一方、ピアノと歌の個人レッスに通つたなど、音楽の方面に力を入れ始めました。熊本へ出て良い先生がたくさんいらつしたというのも原因の一つかもしれません。ピアノを熊高の滝本泰三先生に、歌を九州学院の岩津範和先生に習つたんですが、私達の時代、熊高と九学の男性合唱が優秀だったのは、これらの先生の熱意のあらわれだったのではないかと思います。熊高時代の友人もたくさんいて、帰省の折集まつて会食したりします。彼らも色々な職業に就いてますのでパーティでの話は尽きないですね。

### 芸大大学院卒業後ウィーンへ

芸大の試験に合格した後も、音楽家になるかどうか私自身はまだ迷っていました。しかし、大学二年の時世界的な名歌手であるドイツのハンス・ホッターに逢つて、これは男が

家庭教師に就いたということもなく特別な受験勉強というものはしませんでした。